

豊能町地域公共交通社会実験計画



平成23年2月

豊能町

豊能町巡回バスの見直しについて

現在、豊能町では、東西・東地区・西地区の3路線の巡回バスを運行しています。

巡回バスの運行には多額の経費がかかっていますが、東地区巡回バスは利用者が非常に少ない、西地区巡回バスは阪急路線バスと路線が重複しているなど、必ずしも効率的な運行になっていません。また、東西巡回バスの箕面森町への停車を求める声もあります。今後、老朽化したバス車両を買換える必要もあり、町財政に大きな負担となってきます。このため、限られた財源の中でより多くの住民の方に利用される、より効率的な公共交通になるよう、巡回バスの全面的な見直しを検討しています。

※本案は事業者との調整や運輸局等関係機関の認可を経て実施するため、細部が変更となることがあります。

【1】巡回バスの現状

(1) 利用者数の状況（平成21年度）

路線	便数	平均利用者数 (人)	
		1便あたり	1日あたり
東地区巡回	5	2.8	14
西地区巡回	4	29.8	119
東西巡回	12	14.3	171
合計	21	14.5	304

1日あたりの利用者数が最も多いのは東西巡回で171人、最も少ないのは東巡回で14人です。

東西巡回の利用者は、ほとんどが西地区内の利用で、東西間を移動する利用者数の平均は1日あたり15人（平成22年2月1日～2月10日調査）です。

(2) 収支の状況（平成21年度）

路線	補助金額 (円)	年間利用者数 (人)	利用者1人あたりの町負担額(円)
東地区巡回	11,925,460	5,176	2,304
西地区巡回	16,077,923	42,774	376
東西巡回	23,880,585	61,296	390
合計	51,883,968	109,246	475

巡回バスに町が支出する経費（補助金）は、年間約5,200万円で、利用者1人あたりの町の平均負担額は475円です。

見直しの一環として、平成22年度より無料乗車証の廃止を行いました。これにより4～10月の利用者数は前年同月と比較して30%減少しました

【2】巡回バスの課題

費用対効果が低い

- ・乗客が少ない
- ・路線バスとの重複が多く非効率的

財政負担が大きい

- ・財政状況の悪化
- ・バスの買い替えが必要（4台中2台）

巡回バスの見直しにかかる課題は、大きく分けて2つあります。1つは多額の費用を要しているにもかかわらず、乗客が少なく、効率的な運行になっていないこと。もう1つは、財政状況の悪化により、巡回バスの運行をこのまま継続することが町財政の大きな負担になっていることです。

これらの課題に取り組むため、下記のような見直しの目標を設定します。

【見直しの目標】

費用対効果を高める

- ・多くの町民が利用する効率的な運行

財政負担の軽減

- ・運行経費の縮減
- ・収支比率の向上



持続的な運行による交通弱者対策とまちの活性化

【3】見直し的手段

○社会実験として下記の運行を実施します

1台のバスで東西間を運行

- ・巡回バス3系統を1系統に
- ・最短路線で時間を短縮、経費を縮減
- ・箕面森町停車による乗客の増

他の交通との接続

- ・ときわ台駅で能勢電鉄と接続
- ・箕面森町で阪急バス箕面森町線（千里中央方面）と接続
- ・余野でデマンドタクシー（下記）と接続

東地区デマンドタクシーの導入

- ・高山・川尻の一部、野間口、牧、寺田、切畑、木代（福田）において、東西間のバスに接続できる公共交通がなく、乗ることが出来ないが、これらの地域は利用者が少ない
- ・デマンドタクシーは予約に応じて走行するため、利用者の少ない地域に適している

※デマンドタクシーの詳細は別添「デマンドタクシーとは？」を参照してください。

実験では、費用対効果を高め、財政負担の軽減を図るため、バスの買い替えを見送り、1台のバスによる運行を行います。運行は、最短路線で行うため、このバスに乗ることが出来ない地域が生じたり、公共施設へのアクセスがなくなる、といった影響が考えられます。

そこで、東西のバスはときわ台駅で能勢電鉄と、箕面森町で阪急バスと、余野でデマンドタクシーと接続することで交通のネットワークを確立し、利用者の利便性を図ります。

【4】社会実験運行の詳細

※運行路線は別添「社会実験路線図」を参照してください。

①東西バス運行

運行の考え方	・ときわ台駅⇄希望ヶ丘を最短で結び、本数を確保する ・全便ときわ台駅、箕面森町で、鉄道・バスに接続する
車両	バス車両による運行
ダイヤ	・平日 6時台～20時台 8往復 16便 ・土日祝 8時台～17時台 5往復 10便 ・公共施設だけでなく、町内外の移動に幅広く利用できるダイヤ

②東地区デマンドタクシー運行

運行の考え方	・予約のあった時のみ運行し、予約のあった停留所を最短で結ぶ ・全便東西間のバスに接続する
車両	タクシー車両で運行
ダイヤ	・平日 8時台～18時台 高山方面、牧・切畑・福田方面各3往復 6便 ・土日祝 8時台～18時台 高山方面、牧・切畑・福田方面各2往復 4便 ・東西間のバスを利用できるダイヤ

路線見直しに伴い、次のバス運行は休止します

- ・東地区巡回バス及び西地区巡回バスの全線
- ・東西巡回バスの内、支所前－シートス、ときわ台3丁目、ときわ台5丁目、支所前－妙見口駅－豊悠プラザの各停留所

【5】実験運賃・利用料金

東西バス運賃	距離別運賃・上限200円 …初乗り150円、以降距離別に加算されますが200円が上限となります (こども半額・但し10円単位に切り上げ)
東地区デマンドタクシー利用料金	200円(こども100円)

巡回バスは公共施設を巡回する運行を行っているため、運賃が100円であっても路線バスとの競合を避けることができていました。しかし、社会実験運行では、鉄道や路線バスとの接続を重視することから、100円均一とすると路線バスと競合する部分が多くなります。

東西バスやデマンドタクシーが、町の基幹交通である民間路線を圧迫し、路線の廃止、減便につながることは避ける必要があります。

そこで、東西バスについては路線バス同様、距離別運賃とします。ただし利用者の負担を軽減するため、上限を200円としています。また、東地区デマンドタクシーは、走行する区間のバス運賃が200円前後であること、タクシーに乗合いするという性質上、距離別運賃が困難であることから、利用料は一律200円としています。

【6】 利用促進策

公共交通の実施は、ただ走らせるのではなく、利用促進も重要です。社会実験運行では、多くの住民の方々に利用していただけるよう、利用促進策を検討し、可能なものから実施していきます。

【7】 社会実験による評価と見直し

社会実験による運行は、約1年間実施し、利用者数や収支率などの指標により実績を評価します。その検証結果を踏まえ、運行継続の是非や内容のさらなる見直しを検討します。

なお、社会実験による評価と見直しは、行政だけでなく、住民、学識経験者、交通事業者等による第三者機関「豊能町地域公共交通会議」で行います。

※地域公共交通会議とは

…道路運送法に定める組織で、住民、学識経験者、行政、交通事業者等によって構成されます。豊能町では平成20年9月に発足し、これまで高齢者等外出支援サービス「おでかけ君」の運行継続等の審議をしています。

【社会実験実施スケジュール（案）】

H23.2	社会実験実施決定
H23. 2 ～	地域公共交通会議等の法定協議（デマンド） 及び運輸局等関係機関の手続き
H23.7	運輸局等関係機関の手続き完了後、実験運行 の開始
H23.8 ～	利用者実績やアンケート等による検証
H24.7 ～	社会実験評価とさらなる見直しの検討

地域公共交通会議
による検証

実施年月は関係機関の手続き、調整により前後します。

【8】社会実験による見直しにおける参考意見

社会実験によるさらなる見直しの際は、実績や検証過程における意見に加え、本案のパブリックコメントに提出のあった下記の意見を参考とします。

①運行形態

- ・西地区におけるデマンドタクシーの運行
- ・西地区における阪急バス路線の再編
- ・職員やNPOによる運行や外部委託
- ・同一区域内のデマンドと定時定路線の組み合わせ
- ・フリー乗降制
- ・カーシェアリングと、共有車両のボランティアによる運行
- ・タクシー補助
- ・外出支援サービス「おでかけくん」の拡充

②その他

- ・東地区デマンドタクシーの停留所の検証
- ・山間ルートを考慮した車両やバリアフリー対応車両の導入